

【旧約聖書日課】イザヤ書 11章1～10節

- 1 エッサイの株からひとつの芽が萌えいで
その根からひとつの若枝が育ち
- 2 その上に主の霊がとどまる。
知恵と識別の霊
思慮と勇気の霊
主を知り、恐れ敬う霊。
- 3 彼は主を恐れ敬う霊に満たされる。
目に見えるところによって裁きを行わず
耳にするところによって弁護することはない。
- 4 弱い人のために正当な裁きを行い
この地の貧しい人を公平に弁護する。
その口の鞭をもって地を打ち
唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。
- 5 正義をその腰の帯とし
真実をその身に帯びる。
- 6 狼は小羊と共に宿り
豹は子山羊と共に伏す。
子牛は若獅子と共に育ち
小さい子供がそれらを導く。
- 7 牛も熊も共に草をはみ
その子らは共に伏し
獅子も牛もひとしく干し草を食らう。
- 8 乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ
幼子は蝮の巣に手を入れる。
- 9 わたしの聖なる山においては
何もの害を加えず、滅ぼすこともない。
水が海を覆っているように
大地は主を知る知識で満たされる。
- 10 その日が来れば
エッサイの根は
すべての民の旗印として立てられ
国々はそれを求めて集う。
そのとどまるところは栄光に輝く。

【使徒書日課】コリントの信徒への手紙一 1章26～31節

²⁶兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。²⁷ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選びました。²⁸また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。²⁹それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。³⁰神に

よってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。³¹「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

【福音書日課】ルカによる福音書 1章26～38節

²⁶六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。²⁷ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。²⁸天使は、彼女のところに来て言った。「おめでどう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」²⁹マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。³⁰すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。³¹あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。³²その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。³³彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」³⁴マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」³⁵天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。³⁶あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。³⁷神にできないことは何一つない。」³⁸マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

「おめでどう」【こども説教のために】

「待降節」のしるしとしてきた「アドヴェント・キャンドル」の四本目のロウソクが灯りました。この週、わたしたちは、主のご降誕を祝う「聖なる夜」、「クリスマスイブ」を迎えます。はやる気持ちを抑えて、「聖なる夜」に灯される五本目のロウソク、「降誕のロウソク」の光を灯すまでの備えをいたしましょう。

とは言え、教会の飾りつけの大半は、すでにご降誕の祝いそのものです。こどもたちとは、今日の午後、一足早く「こどもクリスマス」で降誕の祝いを始めます。そこでは、「メリークリスマス」の挨拶も交わされるでしょう。少しばかりせっかちな「あわてんぼうのサンタクロース」は、世の中のどこよりも早く、教会にやって来ているかのようです。

けれども、それも良いのではないのでしょうか。何よりも、「クリスマスの天使」が、今日、早くも「おめでどう」と挨拶をしているというのですから。

クリスマスの天使「ガブリエル」が、御子の母となるマリアに「おめでどう」と挨拶したのは、幼子が生まれるよりも一年近く前のことです。何とも気の早いことですが、これが、世界で最初に交わされた「クリスマスおめでどう」の挨拶かもしれません。

「おめでどう、恵まれた皆さん。あなたにも、神の御子がお生まれになります」。そう挨拶を交わしながら、降誕の祝いへと進み入りましょう。

「恵まれた方。主があなたと共に」

今日の午後に開く「こどもクリスマス」では、今年も「降誕劇礼拝」をいたします。降誕の物語を告げる聖書の朗読とキャロルの讃美を綴りながら、参列者には登場人物を想像させる衣装を着てもらって、象徴的な動きで物語の出来事を視覚的にも分かち合います。古くからおこなわれてきたことですが、近年はもっぱら、子どもたちのための祝いの中に置かれてきました。

子ども時代に教会に通う経験をしていれば、大抵、降誕劇礼拝を見たり演じたりする機会があります。けれども、成人してから教会に通うようになられた方の中には、降誕劇礼拝を見たこともないという方が、案外多くいらっしゃるようです。「わたしは、小さな《クリッペ（人形の降誕セット）》で十分」という方もあるかもしれません。

それでも、子どもたちが中心になって準備される降誕劇礼拝に、おとなの皆さんもぜひ、参与していただきたいと思います。そこで、皆さんは、必ずや「クリスマスの天使」を見ることになるでしょう。いいえ、皆さんに、「クリスマスの天使」を見出していただきたいのです。

その天使は、かわいらしいだけではありません。それどころか、皆さんの目には、さほどかわいらしくも映らないかもしれません。子どもたちは、待降節に入ってから、降誕劇礼拝のための備えをしてきましたが、演技の練習をしたわけでもなく、当日急に参加する子どもも含めて、降誕劇礼拝は始められるのです。途中でとまどったり、右往左往したりすることがあるかもしれません。けれども、その子どもたちこそ、神から遣わされた天使なのです。わたしたちの教会に神が遣わしてくださった天使たちなのです。

御子のご降誕を祝うために、確かにこの天使たちは、遣わされてきました。そして、この天使たちは歌うでしょう、「おめでとう」と。わたしたちに、ご降誕の祝いの近いことを告げて、「おめでとう」と挨拶してくれることでしょう。そのような機会が目前にあることを知っていて、そこに加わることができるのであれば、ぜひ、この「クリスマスの天使たち」の告げる挨拶を受けるために、そして、それに応えるために、共に礼拝に加わっていただきたいと思います。

そのとき、皆さんは、きっと、天使ガブリエルがマリアに、「**恵まれた方。主があなたと共におられる**」と告げたことの意味を、一つ深く知るようになるでしょう。天使ガブリエルは、先主日のあのザカリアに、「わたしは…**神の前に立つ者**」と名乗っていました。天使は、「**神の前に立つ者**」です。神から遣わされた天使たちは、神の前に立つ者たちです。彼らが共にいてくれるので、わたしたちは、「共にある」ことを知るので。天使と共にあることを。天使を遣わしてくださった主なる神と共にあることを。

「あなたは神の子を産む」

マリアには、神の遣わしてくださった天使ガブリエルの存在が必要でした。考えてみてください。ガブリエルが現れなくても、マリアは、**身ごもって男の子を産む**ことになったかもしれません。けれども、もしもガブリエルが現れなかったならば、マリアは、自分の身に起ころうとしていたことを、理解できなかったかもしれないのです。それは、恐ろしいことです。彼女が理解しなかったならば、生まれてくる男の子が「**聖なる者、神の子**」として知られるようになることはなかったかもしれないのですから。

わたしたちにも皆、ガブリエルの存在が必要です。「クリスマスの天使」が必要です。それは、何か宗教画に描かれるような羽の生えた気高い姿をしている者ではないかもしれません。それが何か問題でしょうか。大切なことは、マリアが聞いたように、わたしたちの内に宿らされる存在が何であるのかを、知るようになることです。

「**恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産む…。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。**」

マリアは、確かに戸惑いました、「**どうして、そのようなことがありえますよ。わたしは男の人を知りませんのに**」と。彼女は、まだ知らなかったのです。「自分の内に命が宿る前に、知っておくべきことがある。けれども、自分はまだ知らない」。マリアは、そう考えました。

わたしたちも、そう考えていたかもしれません。「わたしたちの内に貴い神からの命が宿ってくださるといふのなら、それにふさわしい自分であるために、知っておくべきことがあるだろう」と。

それでも、ガブリエルは告げるでしょう、「**聖霊があなたに降り、いと高き方があなたを包む**」と。「**神にできないことは何一つない**」と。「あなたに宿り、生まれるのは、聖なる者、神の子と呼ばれる者」と。

マリアは、それを聞き流すこともできました。否定することもできました。けれども、そうしませんでした。「**お言葉どおり、この身に成りますように**」と、天使の告げる言葉を心に留めたのです。自分の内に宿る命に目を向け、その命が生まれ出でるときを、待ち続けたのです。

クリスマスの天使は、皆さんのもとに来ています。神から遣わされて来ました。彼らの挨拶を受けましょう。挨拶を返しましょう。神が宿らせてくださる命の光を見つめましょう。わたしたちの見えるところに、わたしたちの手の上に、宿った命の光が現れてくるのは、まもなくです。

それは、「**聖なる者、神の子**」と呼ばれるのです。それが、あなたの内にすでに宿っている神からの命、わたしたちが生涯共にあり続けるべき人の姿、あるべき人の姿なのです。